

令和 5 年度 稲沢市地域自立支援協議会 第 1 回本会議 議事要旨

【日 時】令和 5 年 11 月 7 日（火）午後 2 時～午後 3 時 40 分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎 2 階 第 12 会議室

【出席者】本会議委員 7 人、事務局 9 人、手話通訳者 2 人

【欠席者】本会議委員 2 人

会長あいさつ

【議 事】

1 議題

(1)稲沢市障害者計画等について

障害者計画、障害福祉計画（案）について、事務局から説明

委員 A 地域移行者数 3 人、施設入所者の削減数 2 人について、3 人が移行し、1 人が入所するという見方になるのか。

事務局 亡くなるかたや、高齢者施設に移られるかたがいる一方で、入所されるかたもいると思われるため、このような数字とした。

委員 A 地域の現状として、入所施設の定員が大幅に割れている事業所がある。具体的には、50 人定員のうち 36 人しかいない事業所があるときいている。この部分はどう考えて、最終的な数値になったのか。一方で「単に GH への移行を目指すのではなく、その過程で、本人の希望する生活を実現するために必要な意思決定支援を行うことが重要」、と文言を入れていただいたのは大変ありがたい。まさしくこれを進めていただきたい。サービスの見込み量で、児童発達支援と医療型児童発達支援に分けた表になっている。児童福祉法の改正で、児童発達支援センターの一元化があったが、分けたままで良いか。

事務局 確認したところ、国の基本指針でも、医療型児童発達支援は項目が削除されていたため、記載方法を修正する。

会 長 パブリックコメントに関する周知は、広報のみか。市の広報を見る人は少ない印象がある。

事務局 市 HP 等でも周知した。

会 長 回答者は、障害のあるかたの関係者か。

事務局 当事者のかたもいれば、一般市民のかたもいらっしゃる。

(2)運営会議等の実施状況について

運営会議等の実施状況について事務局から説明

委員 A 個別支援会議の回数が減っている。自立支援協議会活動の燃料が、個別支援会議から抽出される地域の課題である。個別支援会議を必要な限り開催するような意識づけ、あるいは基幹センターや委託の相談支援センターに届く困難事例から、地域

課題を考えていかないと、協議会全体が止まってしまう。

(3) 分野別部会の実施状況について

地域生活支援部会の実施状況について部会長から説明

会 長 地域生活支援部会について知識不足だったが、報告を聞き、緊急時のネットワーク作りなど、色々な課題整理もされて地道に活動されていると感じた。

就労支援部会の実施状況について事務局から説明（意見なし）

権利擁護推進部会の実施状況について事務局から説明

委員 A マスコミ報道で障害者虐待の話や保育園の不適切保育が連日出ているが、福祉人材が減っている状況に拍車をかけていると感じている。虐待や差別など、ネガティブな払拭を具体的に地域で考えないと、ますます人が減っていくと心配している。一方で、虐待防止法自体に問題があると思っているが、本来こういう問題が起きないように関わるべき福祉従事者や相談支援専門員が何もせず、家族が不適切だと通報することが起きている。これは相談員のネグレクトだと思う。それを行政の仕事だとぶつけたり、事業所の中でうまくいかないと、それを通報して改善させようとしたり、良くない方向に進んでいる。権利擁護推進部会は虐待の報告や確認等、認定の力を向上させる役割はあるが、ポジティブな意味で権利擁護を訴えていくことを考える部会にしてほしい。

こども部会の実施状況について部会長から説明

委員 B 不登校対策について、学校の巡回相談をしている中で、子どもたちや学校の状況、市でどんな対策をしているかなどを見ているが、部会として取り組んでもらえるのは大変ありがたいこと。稲沢市教育委員会では不登校対策として、あすかやフリースクールとの連携、ホームフレンド、学生ボランティア、いじめ対策委員会などがあるが、実態がなかなか見えてこないため、こども部会でぜひアプローチして実態把握を進めてもらいたい。

委員 C 医療的ケア児支援ネットワーク会議で、災害に備えた体制づくりの話をしていると報告があった。地域生活支援部会でも災害に取り組んでいくが、同じような内容になってくると思われるが、どう整理したら良いか。

事務局 児・者まとめて考えるべきこと、分けて考えるべきことがあろうかと思うので、今後、委員からの意見を伺って進めていきたい。

委員 D 地域生活支援部会長の時から、災害について取り組みたいと考えていた。昨年度まで医療的ケア児支援ネットワーク会議は地域生活支援部会所管だったが、連携して行っていきたいというのは以前からあった。しかし、現状まだ進んでいない。

委員 A 先ほど、こども部会長から、清須市でシンポジウムに呼ばれた話があったが、私も参加し、とてもいい内容だった。あま・津島圏域と尾張北部圏域の医療的ケア児等アドバイザーの役割で参加したが、稲沢市が良い点は、官民協働を意識していると

ころ。上手くいっていない地域は、官民で互いに負担の押し付けや、共通の言語がない話し合いをしている。官民協働を大事にしている稲沢市のやり方は良い。また、学校のニーズがたくさんある中で、保育所等訪問支援は、契約による個別給付で学校のニーズに応えきれないことになっている。そもそも制度設計が間違っていて、事業として成立していないところもあるが、子どもに支援が入ったが、学校で困っていることは相談に乗ってもらえない。地域生活支援事業の任意事業の中の専門員派遣事業をやると、職員の困りごとに対していろいろとアプローチできる。

委員 D 子育て相談室なのはなで、巡回事業を行っている。

委員 A 障害があろうが医療的ケア児であろうが、子どもは子どもとして、インクルーシブ教育、インクルーシブ保育にスイッチしていかないと、この問題は解決していかない。分けないことを大前提にして舵を取っていただきたい。

(4)事業所連絡会の実施状況について

事業所連絡会の実施状況について事務局から報告（意見なし）

2 その他

地域生活支援部会委員の変更について

分野別部会等日程の変更について

講演会について（予定）

チャレンジドフェスタ 2023 について

委員 E 自立支援協議会に関しては、管内の市町全てに行けていないが、ここまで積極的なところがなく、本当に勉強になっている。法務局は人権啓発、人権相談で、障害者にも関わる。たくさん相談を受ける中で、障害のあるかたの差別問題や、お子さんが学校の中でうまく対応してもらえない相談もある。相談機関に紹介する役目もあるので、引き続き連携したい。啓発の部分では、人権擁護委員が福祉施設へ出向き、人権啓発の話をして意識を高めていただく。簡単な相談会を開くこともある。施設入所者への差別は重大な問題である一方で、逆に施設職員が差別や、入所者から暴力を受ける問題もある。施設側からの訴えや相談も受けなければいけないと感じている。

部会長 チャレンジドフェスタ 2023 について、稲沢市障害者福祉団体連合会として何かあるか。

委員 F 本日、チラシを配布している。興味のあるかたはぜひ参加を。